

令和4年度 学校評価書

R5.3.1

【学校教育目標】 すすんで学び、よりよく生きる人を育てる 【めざす子ども】 心も体も元気な子ども 生活する力のある子ども 自分の思いや気持ちを伝える子ども	【教育方針】 (1)一人一人が今もっている力や特性を的確に把握し、また本人や保護者の思いや願いを踏まえ、育てたい力(育成すべき資質・能力)を整理します。 (2)必要な知識や技能、思考力、判断力、表現力などを、子どもたちが受け身ではなく主体的にすすんで学び身につける日々の授業を展開していきます。 (3)卒業後の生活の中で、暮らすことや働くこと、余暇を楽しむことなど、生涯にわたってよりよく生きることが出来る人を育てていきます。
--	--

評価方法:教員保護者とも【めざす学校】及び【今年度の重点】に沿った評価項目を設定し、4段階で評価。

評価基準:A(できた・そう思う)、B(だいたいできた・だいたいそう思う)、C(あまりできなかった・あまり思わない)、D(できなかった・まったく思わない)

達 成 度:AとBの合計(%) A達成できた(80%以上)、Bだいたい達成できた(60～79%)、Cあまり達成できなかった(40～59%)、D達成できなかった(39%以下)

【今年度の重点】「安心、安全な学校」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	●課題及び改善策　○継続　・次年度の取り組み
①新型コロナウイルス感染症対策	・三密の回避と健康観察の徹底。 ・手洗い、マスク着用、咳エチケット等の継続指導。 ・感染症に配慮した学習活動の工夫。	・手洗いや換気など昨年度から引き続きの取り組みを続けてきている。 ・冬場の換気と防寒対策としての教室等の防寒処置や　CO2　モニター設置など設備面において対応を進めることができた。	A (97%)	●学習場面によっては、児童や教師との距離が近すぎてしまうことがある。感染リスクを減らすために、教職員でお互いに声を掛け合うなど今後とも引き続き注意することを確認し、感染防止のために工夫することを考え実践していく。【全体】 ●感染症発生時の対応や予防についての周知、体制づくり(予防についての手段やポイントなど資料作成し、提示する)【保体部】 ○相談支援事業所など外部の方を交えての拡大ケース会は今後も必要に応じて行いたい。【教育支援委】 ○ヒヤリハットを記録に残すことで、事案の傾向も分かり教師の備えの一助になる。今後も継続して取り組む。【保体部】 ●安全管理マニュアルの内容として、J　アラート発信時の避難についても検討していく。【保体部、教頭】
②家庭や関係機関との情報共有・共通理解による連携	・家庭及び放デイ等との日常的な連携(目標、支援方法、成果等の情報共有、共通理解)。 ・ケース会の活用と関係機関との連携。	・児童の様子について、家庭及や放デイ事業所と連携し共通理解に基づいて支援を行うことができた。 ・必要に応じてケース会を設定し、対象児童について関係職員全員でより良い支援について話し合うことができた。また、職員会議の「児童について」でも、共通理解を図ることができた。		
③安全な学習環境づくり	・定期の安全点検と日常的な安全管理。 ・ヒヤリハット・事故事例の速やかな職員間での共有。 ・校内の整理整頓と安全な学習環境づくり。 ・安全管理マニュアルの見直し。	・事故、ヒヤリハットの事例については、会議や記録など職員間で共有した。危機管理意識の向上につながった。 ・安全な学習のための環境整備についてさまざまな工夫を考え、状況によって変更するなどの対応を行うことができた。		
【今年度の重点】「一人一人に応じた指導・支援の充実」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題及び改善策
④個別的教育支援計画、個別の指導計画の活用	・授業づくりにおける個別の指導計画の日常的な活用。 ・学習グループ・形態の工夫。合同学習時の T.T.の充実。 ・連携のツールとしての個別的教育支援計画の活用。	・個別の指導計画をもとに単元によって、全体をはじめ、様々な学年と組んで学習することができた。 ・児童の実態から、小・大集団(合同)の様々な学習形態で集団参加を促す学習ができた。	A (95%)	・どのような学習形態が効果的になるか、個別の指導計画と関連付けながら考えていく。 ○単元によって、全体をはじめ様々な学年と組むことは、他学年の児童の実態や課題も見えている。【学部】 ・目標と評価の一体化について、全体で共通認識を持って取り組んでいく。【教頭】 ・担任会や評価検討会のほかにも、授業後の職員室など日常的な場を生かした授業の振り返りなども意識的に取り組んでいく。
⑤指導目標と評価の一体化	・日々の授業記録の習慣化と活用による、学習評価に基づく継続的な授業改善。 ・担任会、評価検討会での授業行事等における児童の姿からの振り返り。	・授業カードを活用することで、目標と評価を確認して授業を行い、改善に活かすことができた。 ・担任会で様々な相談、話し合いをしながら児童の様子について共通理解を図り、支援にあたることができた。		
【今年度の重点】「楽しく充実感のある授業の改善」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題及び改善策
⑥外部資源の協力要請	・地域人材を招聘した授業づくり。 ・学校周辺の資源を生かした校外学習の充実。 ・山五小との交流及び共同学習。	・地域人材の活用では、コロナウイルス感染の状況を見ながら、できる範囲で取り組むことができた。(R4年度;ダンス教室4回) ・居住地校交流を実施することができた(東小)	A (83%)	・地域人材を活用した授業や交流については、コロナウイルス感染症防止の状況に応じて適切な対策を取りながら次年度も取り組んでいく【学研部】 ・オンラインによる研修会への参加は今後も継続して行っていく。成果を周知する機会も設け、共有する。【学研部、教頭】 ・ICT 利活用については、ミニ研修会で行ったことも授業の中の実践にも取り組んでいく。
⑦教員の専門性の向上	・学校研究の取組との授業研究会の実施。 ・ICT 利活用による授業の実践。 ・オンラインの活用による各種研修会への参加。	・学校研究の取組及び授業研究会を通して(11 月)、児童が主体的に取り組むための授業づくりや授業カードのよりよい活用の仕方について検討することができた。 ・ICT 利活用についての研修は、学部研修会の中で時間を設けて行うこと		

		ができた。 ・夏季休業中などさまざまな研修会の機会を積極的に活用することができた。		
【めざす学校】「相談や支援を受けられる、頼りになる学校」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題及び改善策
⑧地域の特別支援学校としてセンター的機能の充実 【教員のみ評価】	・教育相談業務の平準化のため、複数で対応。 ・学校見学、巡回相談等への速やかな対応。	・校内での就学相談については、複数の教員で児童対応を行い、実施することができた。 ・県事業の巡回相談員派遣が1件あり(山寺小)、対応することができた。	A (100%)	○今後も、児童対応については複数の教員も参加して、より多くの人で関わられるようにしていく。【支援委】 ・巡回相談の依頼に対しては、担当以外でも校内での人員の調整をして実施できるようにしていく【教頭】
【めざす学校】「働きやすい、やりがいのある学校」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題及び改善策
⑨会議や打ち合わせの精選による時間確保 ⑩計画的な仕事の取り組みによる勤務時間管理 【教員のみ評価】	・事前の資料配布や協議事項を絞るなどしての時間短縮。 ・各部署での確実な資料整理、保存 ・客観的方法による時間管理。 ・一斉退校日、定時退校日の設定。	・担任会などは、協議すべきことがあるかを主担当が事前に確認、調整することで、会議の回数を減らして個々の業務時間を確保できた。 ・一斉退校日、定時退校日については月予定に明示したり、職員室掲示をしたりして周知することができた。	A (89%)	●業務が個人に集中する時期を定期的に確認して、担当や内容を変更などして、負担が重ならないようにしていく。【全体、教頭】 ●個々の業務や時期によって、同日に一斉退校が難しい日がある。実施日の変更などの対策も考えていく。【全体、教頭】